

第 17 回 日銀グランプリ決勝大会 審査員講評

審査員長 若田部 昌澄 (日本銀行副総裁)

審査員 小柴 満信 (経済同友会 副代表幹事、JSR株式会社 名誉会長)

野原 佐和子 (株式会社イプシ・マーケティング研究所 代表取締役社長)

安達 誠司 (日本銀行政策委員会審議委員)

中村 豊明 (日本銀行政策委員会審議委員)

1. 総評

皆さん、活発なプレゼンテーションを有難うございました。

現在の日本経済・金融の課題について、多様な発想・視点から提言いただきました。統計データとその分析にとどまらず、積極的に実務家への聞き取り調査を行ったり、SNSなどのツールを利用して、アンケートを実施するなど、とても工夫が凝らされていると感じました。こうした自分達が考えた提言と、その問題点とを検証するステップは非常に大切です。

また、本日のプレゼンテーションも、アイデアに富んだものでした。審査員方からの専門的かつ高度な質問を受けても、自分たちの考えをしっかりと伝え、さらに議論を深めていました。そうした皆さんの姿は大変頼もしく、嬉しく感じたところです。

2. 個別の論文について

それでは、個々の論文ごとに講評を述べたいと思います。

【最優秀賞】

同志社大学

SDGs 促進ファンド“幸”

～幸せな人は、周りの人まで幸せにできる～

同志社大学チームは、マズローの自己実現理論をもとに、自律的に SDGs を取り組むことができる企業を選定しました。そしてその選定企業を組み込んだファンドを経済産業省と資産運用会社が組成し、選定企業を資金面で後押しすることを通じて、本質的な SDGs 活動の促進を図ることを提言しました。

また、多数の指標をもとに、ファンドのリスク・リターン分析を詳細に行うなど、提言に説得性を持たせるために、時間をかけた丁寧な分析や検討が行われていました。

プレゼンテーションは、実際に選定企業に対して行ったヒアリング結果を織り交ぜるなど、非常にわかりやすいものでした。

なお、①企業活動の実態に合わせた SDGs 活動の促進や、②ファンド組成段階で行政が関与することの必要性、③企業を選定するために導入した複数のスクリーニング手法のそれぞれの効果、について更にわかりやすい説明を加えることなどを通じて、提言の魅力を高めることが望まれます。特に、この提言では上場企業の資金調達円滑化につながらない点については、更なる検討が必要です。

【優秀賞】

相山女学園大学

教育投資信託（EIT : Education Investment Trust）による老後資金の運用で世代間の交流を図る

相山女学園大学チームは、大学の学費を賄うため、アルバイトに割く時間が長くなり、学業に集中できなくなっている大学生を支援する制度を提言しました。目的別・大学別に教育投資信託（EIT）を設立し、高齢者から余裕資金を募ることで、高齢者と学生の世代間交流を図ることも狙いとしております。

なお、①大学生の教育資金不足問題に対する分析を一段と深めたうえで、②スキームの収益性と実現可能性、についての検証を更に深めていくことが望まれます。

【優秀賞】

明治大学

健康維持で老後資金問題を解決！

～ノリで運動してみたらええやん 君ら健康やん それハッピーやん～

明治大学チームは、老後資金不足問題の解決策として、高齢期就労を可能とするための健康維持政策に着目し、行動経済学の知見に基づいた、「損失回避」のナッジを健康診断時に定期的に導入することを提言しました。

また、運動意欲向上のための動画を作成のうえ、WEBアンケートを実施することで、「損失回避」ナッジの有効性の検証も行っております。

なお、①実験と提言の対象とする層が若年層に偏っているほか、②効果を持続させる方法についての検証手段に改善の余地があること、などから、更に検討・検証の精度を高めることが望まれます。

【敢闘賞】

東京経済大学

密です？！いや、高齢者に必要なのは三つです！！

～就労・趣味・消費の包括的マッチングアプリで社会的孤立を防ぐ～

東京経済大学チームは、地域金融機関の新しい収益事業として、勤労意欲の高い高齢者と、人材不足に悩む中小企業を繋ぐマッチングアプリ事業の構築を提言しました。

この提言では、就労を通じた社会参加から、高齢者の社会的孤立解消を支援することを企図しています。

なお、①提言におけるマッチング事業をどのように拡大させていくのか、②提言が地域金融機関にとって新たな収益事業になり得るのかについて、更に詳細な検討を進める必要があります。

【敢闘賞】

麗澤大学

Quintet 投資

～新たなグループ型投資の提案～

麗澤大学チームは、長期的な資産形成のための投資のきっかけ作りとして、グループ型個別株投資の仕組みを提言しました。マッチングアプリを用いて、投資方針が近い5人組のグループを組成し、各人が独自に銘柄を選定したうえで、決算時には5人の損益を合算して配分する仕組みです。

なお、①スキームがグループ参加者のインセンティブを的確に内包しているのか、②開発主体がどのように開発費用を賄いつつ、利用者を集めるのか、③投資初心者にとって、インデックスよりも個別株投資に教育効果があるのか、について更に検討を深めていく必要があります。

3. おわりに

今回の発表論文に関する講評は以上です。本日の決勝進出チームの皆さんのように、多くの学生の皆さんが、身近な生活や大学での勉学をきっかけに金融・経済への興味と関心を培い、自ら考え、仲間と議論しながら提言を作り上げることはとても重要です。この経験は、皆さんにとって大切な財産になると思います。

日本銀行では、来年度も日銀グランプリを開催する予定です。これからも金融・経済面の課題に対する独創的で多様な提言をお待ちしたいと思います。

以 上